

優秀賞

# もどつてきた手ぶくろ

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校四年 松井 玲子

「手ぶくろないんだけど。」

いつもの手ぶくろと同じ黒い手ぶくろをお母さんが持ってきてくれました。お母さんは、手ぶくろをなくすことは想定内だと考えていたようで量販店で同じものを数組買って来たようです。新しい手ぶくろをして駅まで歩きながら昨日のことを思い出しました。学校を出て、地下鉄に乗るまではめていたことはたしかで、そのあとは分からない。お父さんに相談して西鉄や地下鉄のまど口に問い合わせてもらうことになりました。地下鉄のお客さまサービスセンターを通じて、けい察しよへ運ばれ、ほ管されていと分かりました。よく日、お母さんと待ち合わせをして、地下鉄のサービスセンターへ行きました。そこでなくしたときの様子等をくわしく説明すると、パソコンの画面に黒い小さな手ぶくろが写し出されました。落とし物一つ一つを写真にとって登録して

いるのです。お母さんが書類にはんこをおしました。「写真でできてびっくりしたね。」

私はとてもおどろきました。けい察しよに着くと、地下鉄でもらった書類をわたし、手ぶくろの特ちょうを説明しました。係の人がほ管室へ行きました。節電のためなのか、少しうす暗いろう下で静かに待っているとき、お父さんよりも体の大きなおまわりさんが通りすぎて行きました。ビックツとしました。私のわすれ物のためにたくさんの人の手を借りて、仕事のじゃまをして、手ぶくろより高い交通ひをはらって、お母さんにけい察しよまで来てもらって、めいわくかけているだけで、全くいところがない。しばらくして名前をよばれました。さし出された手ぶくろには、ゴムあみの手首の部分にオレンジ色をした「レイコ」の字がはっきり見えました。「私のだ。ありがとうございました。」

お母さんが

「名前を書いていてよかったね。」

と言いました。たしかにその通りです。このけい  
を通して、落とし物がてき切に管理され、名前が書  
いてあればすぐに見つかることが分かりました。お  
母さんは何も言わなかったけれど、手ぶくろより高  
い交通ひをはらってこのことを教えてくれたのだと  
思いました。

